

## 可茂農林事務所の普及活動状況（11月）

### 今月の重点活動

#### ■多様な担い手づくり 農事組合法人みわほたる設立総会の開催

美濃加茂市北部に位置する川浦地区（上川浦・中川浦）では、将来にわたり農地を守っていくため、集落全体で農地を守る「集落ぐるみ型の集落営農組織」の設立を目指してきました。3年前から住民による準備組織を立ち上げ、可茂農林事務所はじめ関係機関は、積極的にその活動の支援を行ってきました。

今般、設立に向けて準備が整ったため、11月4日に美濃加茂市三和交流センターで設立総会が開催されました。

集落営農組織は設立がゴールではなく、その後の持続的な運営が重要となることから、今後も総合的に支援していきます。  
（地域支援第一係・三輪俊貴）



【設立総会】

### 新たなブランドづくり

#### ■栗 超低樹高栽培が、可児市特選栗部会員以外にも拡大

可児市栗振興会特選栗部会では、管内で唯一岐阜県方式の超低樹高栽培に取り組んでおり、管内では最も高い反収をあげています。一方で、同部会員以外の栗生産者では、超低樹高栽培が十分浸透しておらず高木園が多い状況です。

このような中、同部会員以外の生産者から「ほ場全て（1000本程度）で、超低樹高栽培に取り組みたいので、剪定指導をお願いしたい。」との依頼を受けました。

11月7日に園を下見し、20～21日の2日間で、切るべき太枝の位置に印を付けました。剪定時期となる12月中旬に農業普及課職員が剪定見本樹をつくり、園主が枝につけられた印に従って剪定して、この冬の間、園全体を一気に超低樹高栽培に切り替える計画としました。

今後も、高収量栗生産を図るため、このような活動を進めて、超低樹高栽培の拡大を目指していきます。  
（園芸産地支援係・宮田洋輔）



【超低樹高化予定ほ場】

### 売れるブランドづくり

#### ■梨 ジョイント栽培、定植後2年目の生育が終了

美濃加茂市の果樹生産者1戸が、約30aで梨のジョイント栽培に取り組んでいます。ジョイント栽培とは、複数樹の主枝部を連続的に接木で連結し、直線状の集合樹として仕立て省力化等を図る方法です。

今年は、2年間かけて3m以上の長苗を育成し、昨年春に定植した苗を接ぎ木してつなげました。

園では、収穫期の分散を目的に7、8品種が植えられており、多くの品種は順調な生育でした。主力品種である「幸水」では数株枯死したため、補植や接ぎ直しで対処する計画です。

農業普及課では、県内で唯一の事例であるこのジョイント栽培への取り組みを大切にして、生育状況を把握するとともに、生産者の支援を行っていきます。



【ジョイント栽培定植  
2年目の状況】

（園芸産地支援係・宮田洋輔）

## ■花 秋のブライダル、クリスマス需要に向け、ファンシーマリエを出荷

東白川村のカーネーション生産者が切花用フランネルフラワー「ファンシーマリエ」栽培に取り組んで3年目になりました。9月上旬から本格的に秋出荷が始まっています。

11月にはブライダル需要、12月はクリスマス需要が多い一方で、出荷量は県全体では少なくなる時期でもあり、量の確保が課題となっています。今年、11月以降の出荷を目指して、栽培株数を増やすとともに、9月頃に摘芯して開花期を遅らせる方法に挑戦しています。11月中旬は、予定出荷量を維持できており、今後、12月末まで出荷が見込まれます。

来年さらに出荷量の平準化ができるように作型の改良等を支援していきます。



【出荷時期のハウスの様子】

(園芸産地支援・広瀬貴士)

## 多様な担い手づくり

### ■指導農業士 県連パートナー研修の開催

11月19日、県連指導農業士会パートナー研修が美濃加茂市内で開催され、県全域からパートナー19名を始め総勢26名の参加がありました。

可茂農林事務所は、開催地区として研修の企画から当日の案内等の開催支援を行いました。加茂農林高等学校のGAP等の取り組み、ぎふ清流里山公園での農業体験の取り組み、洋菓子工場でのHACCP等の衛生管理について視察を行い、また、パートナー同士の交流を深めることができました。



【加茂農林高校の視察】

(地域支援第二係・加藤昌亮)

### ■新規就農研修生 新規就農研修生集合研修会の開催

11月の毎週金曜日に、JAめぐみの本店にて新規就農研修生集合研修が4回開催され、延べ72名が受講しました。

同研修は、JA研修施設やあすなろ農業塾等での現地研修の補完研修として行われており、農業の基礎知識を身に付けることにより、新規就農時に早期経営安定することを目的としています。

今回の「植物生理」の講義2回と「土壌肥料」の講義2回は可茂農林事務所が講師を担当し、植物の生理生態に基づく農作物管理、植物の生育に適した土壌管理と施肥方法について講義しました。



【講義を行う普及指導員】

(地域支援第二係・加藤昌亮、園芸産地支援・永田真一)